

令和7年度外部評価会 集計表(農業者)

所属名：鹿児島地域振興局農政普及課

課題名②	新規就農者等の育成による肉用牛産地の維持(R6～)					
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①農業者や地域が必要とする課題であるか	5	1		・市場の状況が大きくかわる。	
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者, 地区)の選定は適切であるか	5	1		・新規就農者のデータはいいと思います。	
活動体制・ 活動方法	③関係機関とうまく連携して活動しているか	5	1		・チェックシート及びマニュアルの活用により, 課題の発見があり, 基準を守ることの必要性が理解できた。 ・根気強いやり取りに脱帽。えさの指導	
	④活動(活動方法, 時期, 手段)は適切であるか	5	1			
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	6				
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	4	2		・売上に反映されて, 農家の自信になると思います。	
活動の 波及性 と改善	⑦他の課題や他農業者, 地域への波及性があるか	3	3		・農家と共に問題を解決し続けてほしいです。	
	⑧結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	4	2			
全体的な意見・提言等		・管理チェックシートの活用により, 新規就農者の方にも課題をリスト化し、目標達成・生産性向上に取り組みやすくしており、非常に良いと感じました。 ・畜産も飼料の高騰や子牛の価格で農業所得に大きな影響が出て大変だと感じました。マニュアル等活用して基準を守ることで育成が良くなるということで、しっかりと農業者に伝え頑張ってもらいたいと思いました。 ・時間のかかるプロジェクトだと思いました。また、農家ごとの取り組みに差があるようにも思われますので今後に期待します。				

令和7年度外部評価会 集計表(関係者用)

所属名：鹿児島地域振興局農政普及課

課題名②	新規就農者等の育成による肉用牛産地の維持(R6～)					
	項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①課題は地域の農業振興上、重要な課題であるか	8			・初期設定も大きい肉用牛の新規就農者の定着に向けて課題設定として非常に良い。 ・鹿児島県の基幹産業であるため重要な課題である。	
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	6	2		・新規就農者に絞っており適切である。 ・11人の生産者より良い選定をしている。	
活動体制・活動 方法	③関係機関と連携して活動しているか	5	3		・市やJAともう少し連携を強化したらどうか？ ・地域、関係機関と連携はとれている。	
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	7	1			
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	7	1			
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	6	2		・チェックシートの活用など野菜や花きの新規就農者にも活ができそう。 ・分娩間隔、体高なども向上している。	
	⑦指導対象が積極的に課題解決にあたるようになったか	6	2			
活動の 波及性と改善	⑧他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	7	1		・分娩間隔の短縮、子牛の商品性の向上を図る必要がある。	
	⑨結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	7	1			
全体的な意見提言等		・今回の課題における活動内容については新規就農者だけでなくすべての子牛生産農家にもつながるので、引き続き頑張ってもらいたい。 ・分娩間隔の短縮は目に見えて改善することが難しい課題ですが、結果としてよく反映されており、素晴らしいと思います。地域の他の農家さんへも波及されるよう今後もお願いします。 ・子牛価格が改善したのは、母牛の減が大きいと聞いている。そんな時、これからパラグアイからの輸入が始まれば、産業としてもっと厳しくなる。課題設定として、経営の黒字化が重要と思う。また、牛の生産に和牛が交雑種かどちらかが経営黒字化になるのかなど。 ・高温も影響あるのか。 ・取組による成果がしっかりと表れているので、継続して取り組んでほしい。				

普及指導課題： 新規就農者等の育成による 肉用牛産地の維持(R6～)



鹿児島地域振興局農政普及課
技術普及係

1

1 普及指導対象

新規就農者 (H30～) 11戸

中核的農家 7戸

鹿児島市畜産連絡協議会 151戸

三島村肉用牛農家 26戸

十島村肉用牛農家 57戸



新規就農者プロジェクト指導



新規就農者巡回指導



肉用牛部門技術研修会

2

2 課題を取り上げた理由

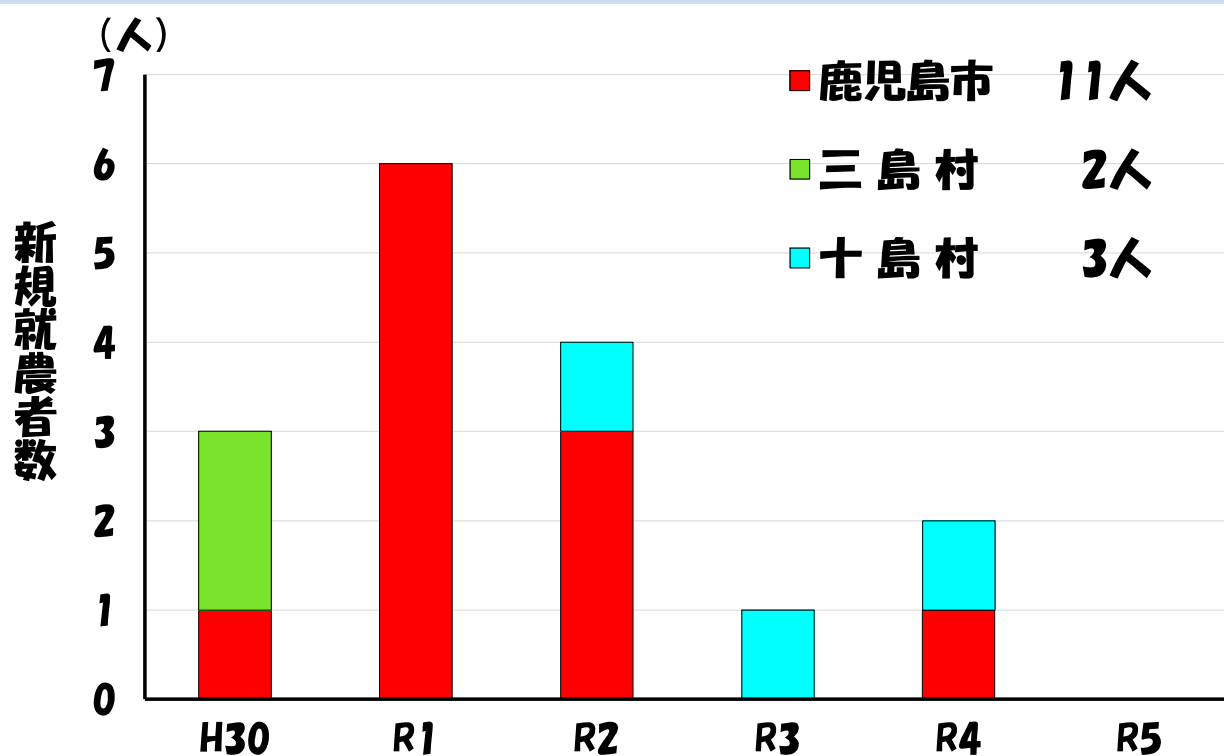


図1 管内肉用牛新規就農者の推移

3

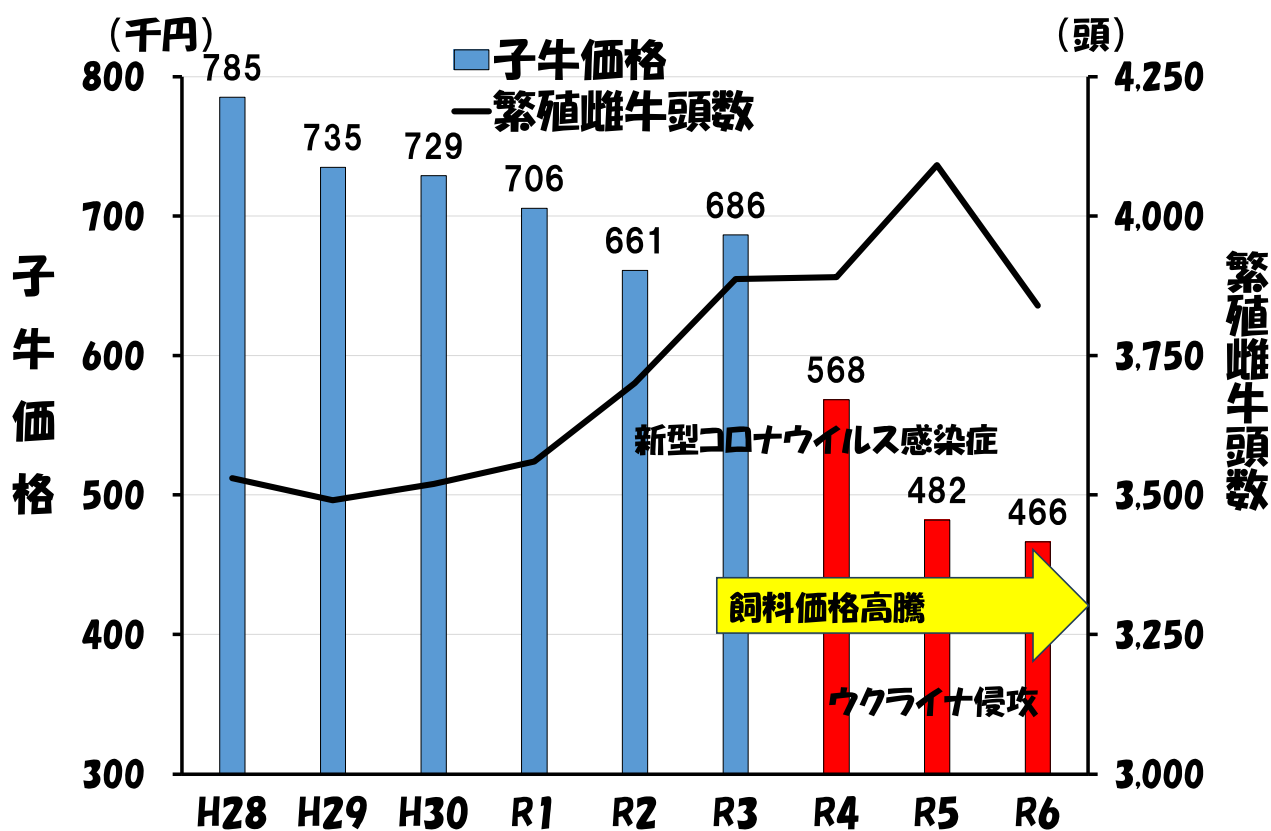
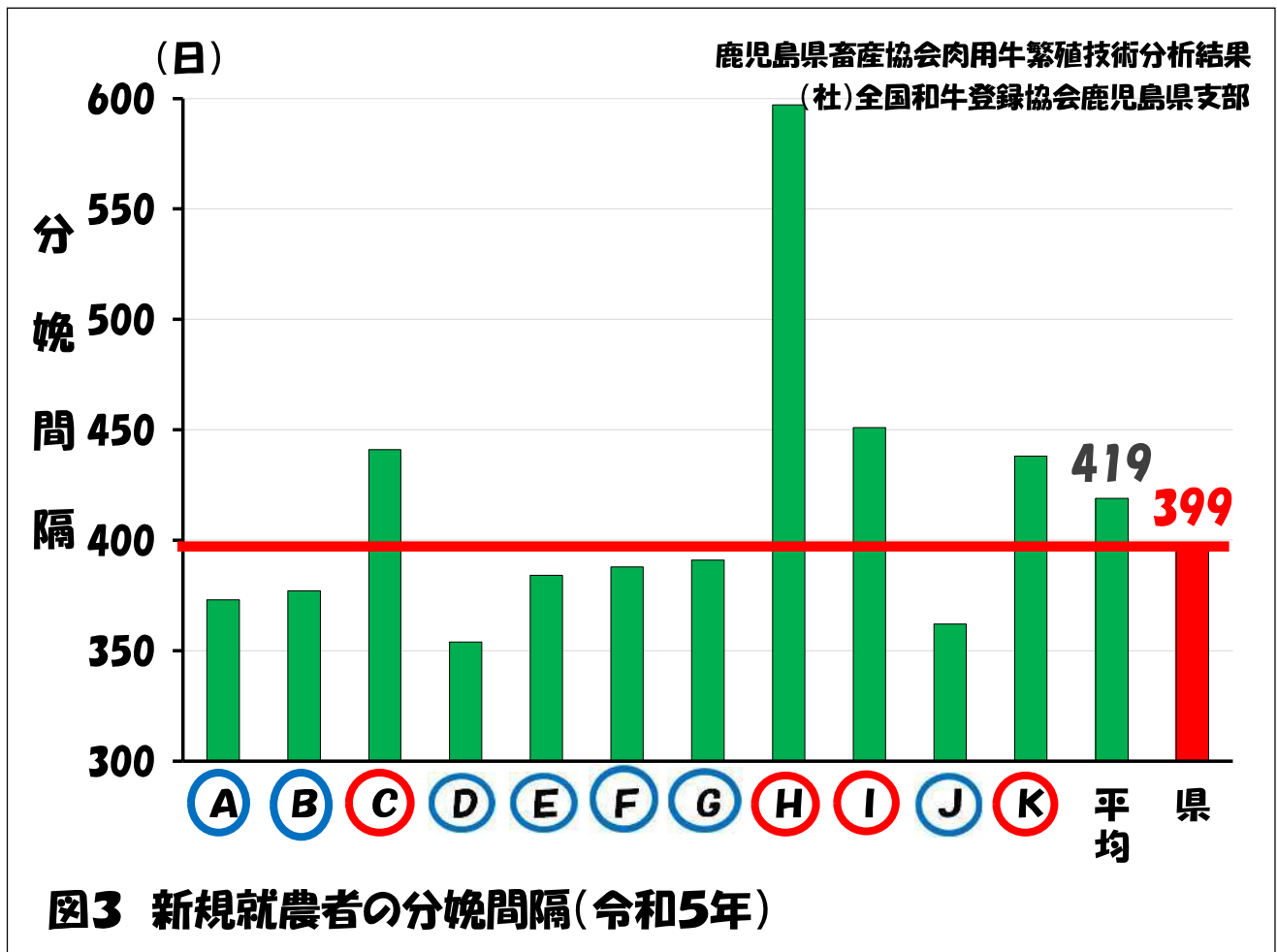
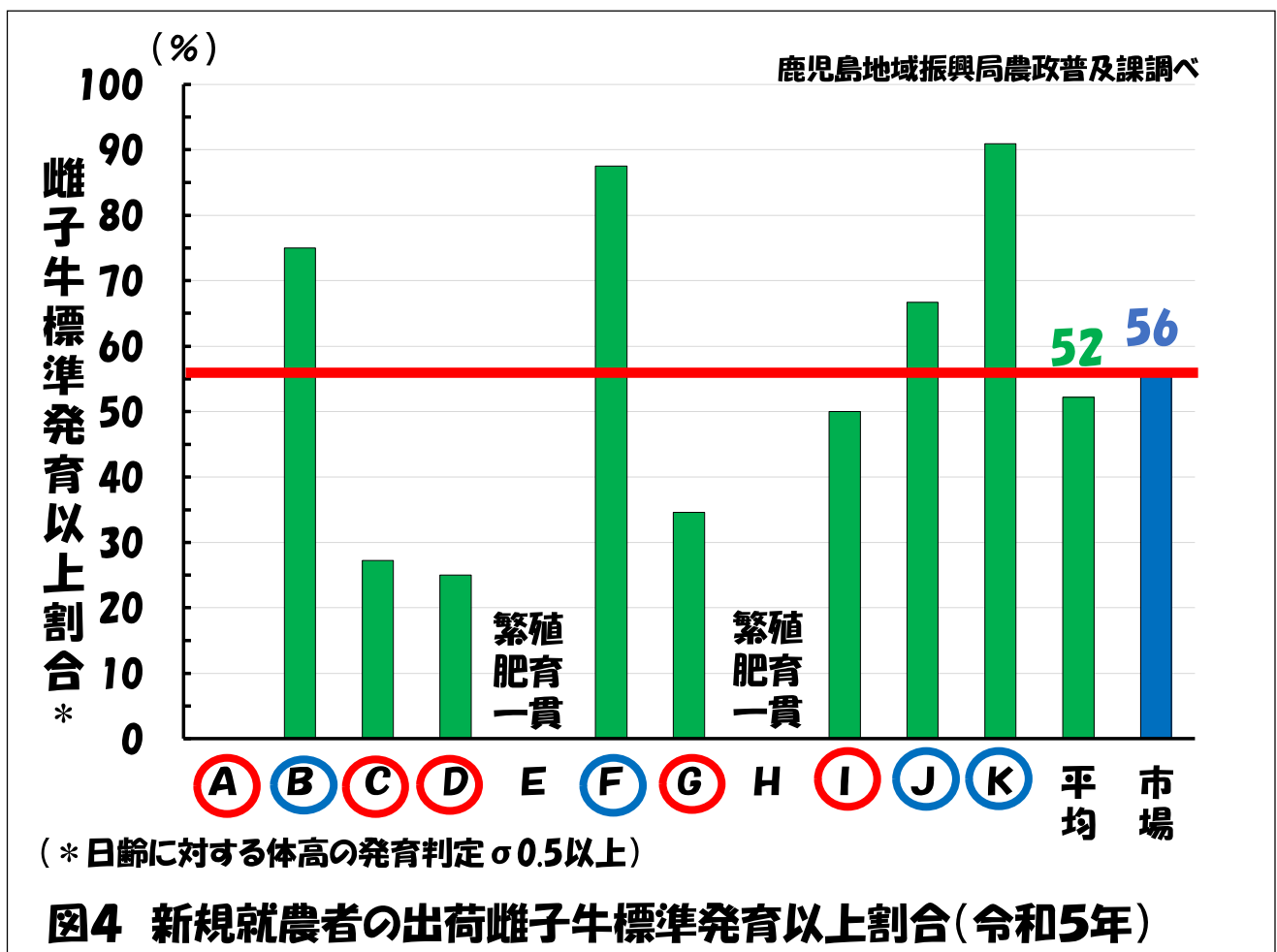


図2 管内子牛価格(税抜)と繁殖雌牛頭数の推移

4



5



6

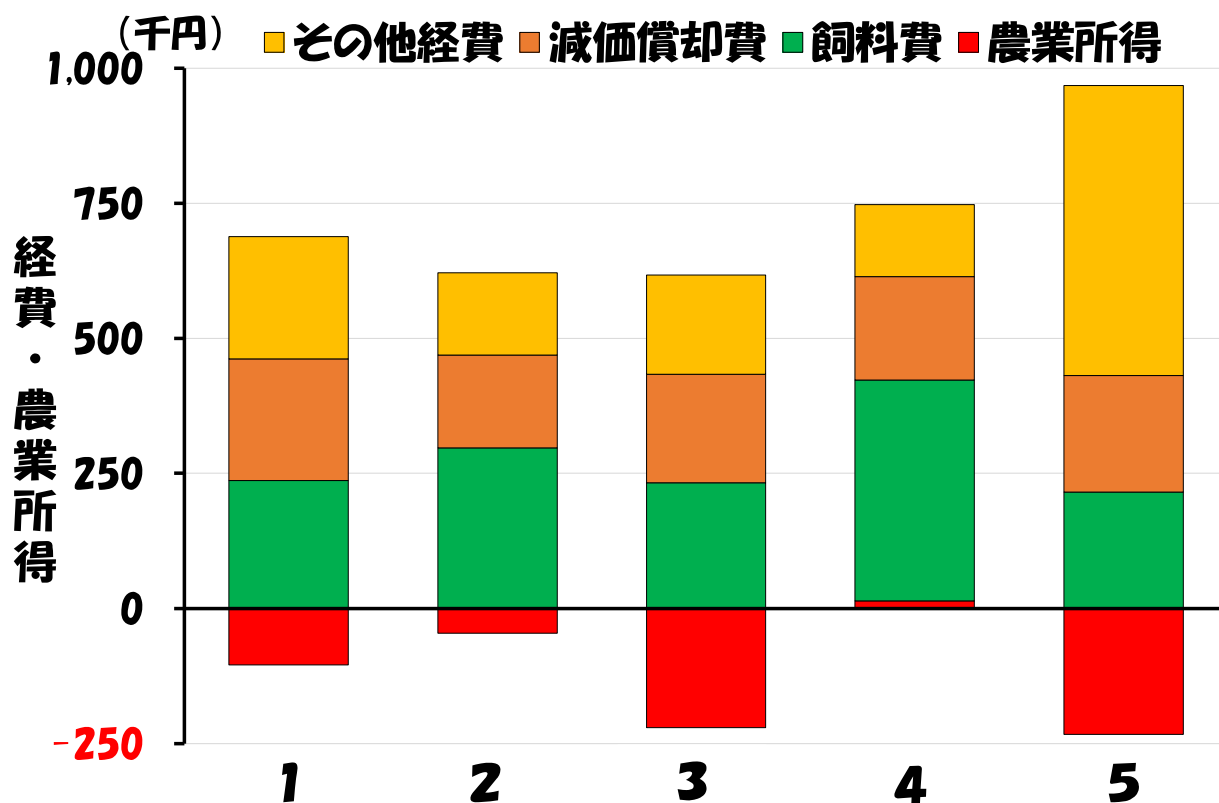
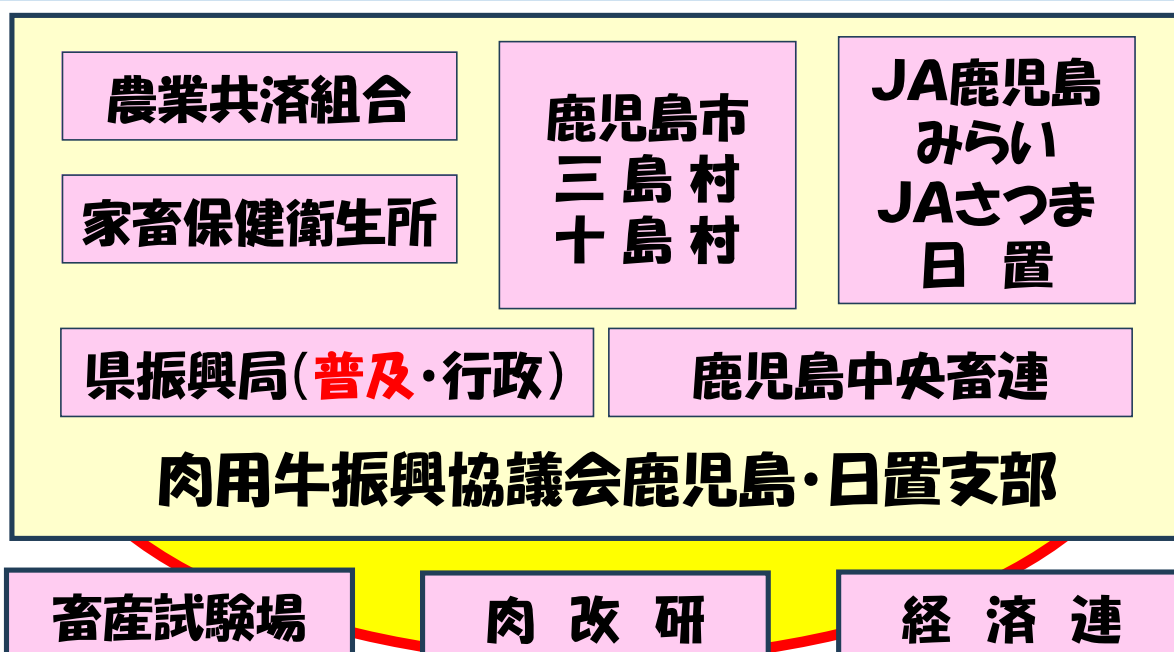


図5 就農資金借入者の繁殖牛1頭当たり経費・所得(令和5年)

7

3 関係機関との連携



個別課題は地域課題⇒技術改善⇒経営改善

図6 活動支援体制

8

4 普及指導項目・目標

(1) 分娩間隔短縮による生産性向上

ア 繁殖管理チェックシート(CS)を活用した指導

- ・36項目のCS作成
- ・新規就農者・中核的農家へ聞き取り 要因分析



・優良農家の技術を
新規就農者へ波及



チェックシートによる聞き取り

目標(R9)
分娩間隔
396日

9

繁殖牛飼養管理チェックシート

農家名:

調査日:

大項目	中項目	NO.	チェック項目	チェック欄
生産牛	一般管理・飼料給与	1	母牛は粗飼料を主体に給与していますか	○ ×
		2	鉱塩は母牛がいつでもなめられる状態ですか	○ ×
		3	分娩前2ヶ月からは母牛の増し飼いをしていますか	○ ×
		4	分娩前の栄養度は適正ですか(やせすぎ、太りすぎていませんか)	○ ×
		5	分娩後授乳中は、母牛の増し飼いをしていますか	○ ×
		6	運動、日光浴を行っていますか	○ ×
		7	ウイルス性異常産の予防注射を行っていますか	○ ×
		8	削蹄を年1回以上行っていますか	○ ×
		9	子牛出荷率(自家保留を含む)は90%を超えていますか	○ ×
		10	母牛管理台帳を記帳し、活用していますか	○ ×
繁殖牛	発情・授精	11	分娩後30～40日頃までに初回発情はきていますか	○ ×
		12	発情観察は、毎日朝、夕に2回以上行っていますか	○ ×
		13	発情予定牛を特定し、観察していますか	○ ×
		14	発情牛の粘液の状態、陰部の状況を調べていますか	○ ×
		15	人工授精は、発情兆候に基づき適期授精していますか	○ ×

10

(2) 飼養管理指導の充実による 子牛商品性向上

A 飼料給与チェックシート(CS)を 活用した指導

- ・40項目のCS作成
- ・新規就農者・中核的農家へ
聞き取り 要因分析



- ・優良農家の技術を
新規就農者へ波及



子牛用飼料は秤量して給与

目標(R9)

**子牛発育目標
達成農家5戸**

(日齢に対する体高の発育
判定σ0.5以上55%以上)

11

子牛飼料給与チェックシート

大項目	中項目	NO.	チェック項目	チェック欄	
子牛	育成管理	25	哺育期用濃厚飼料(げんき君、ばくばくモーレット、ほほえみえづけ用、すいっち等)は生後1ヵ月齢以内から給与を開始していますか	○	×
		26	哺育期用濃厚飼料は3～4ヵ月齢の期間給与していますか	○	×
		27	生後0～4ヵ月齢の期間は濃厚飼料9:良質粗飼料1で給与していますか	○	×
		28	哺育期用濃厚飼料の摂取量は3ヵ月齢時点で2kg/日以上を目標にしていますか (あなたの哺育期用濃厚飼料の給与量ピークはkgですか)	○	×
		29	育成用濃厚飼料の摂取量は5～6ヵ月齢時点で去勢で5kg/日、めすで4kg/日を目標にしています (あなたの育成用濃厚飼料の給与量ピークはkgですか)	○	×
		30	採食量向上のために飼料は徐々に増量していますか	○	×
		31	採食量向上のために多回給餌を取り入れていますか 回	○	×
		32	子牛の粗飼料は細断して給与していますか	○	×
		33	鈹塩は子牛がいつでもなめられる状態ですか	○	×
		34	飲水は、常に新鮮な水が飲めるようになっていますか	○	×
		35	飼料が切り替わる際は約2～3週間かけて徐々に行っていますか	○	×
		36	群飼いの場合、全頭数が同時に飼料が食べられる飼槽ですか	○	×
		37	群飼いは性別や月齢毎に揃えられていますか	○	×
		38	去勢は、3～4ヵ月齢までに実施し、観血法ですか	○	×

12

5 活動の内容

(1) 分娩間隔短縮による生産性向上

ア 飼養管理チェックシート(CS)を活用した指導

(ア)聞き取り結果
分娩間隔と関係の高い
管理項目

離乳時期と分娩間隔
(中核的農家も含む18戸)

**①3か月齢までの
離乳**

**②母牛の適正な飼料
給与・一般管理**

	分 娩 後	
	3か月齢 以 内	4か月齢 以 上
分娩間隔(日)	392.0	440.6
標準偏差(日)	±5.6	±10.1
戸数	10	8

13

(イ)新規就農Cさんの分娩間隔短縮プロジェクト

- ・令和3年1月就農
- ・令和5年10月～令和6年12月分娩26頭
- ①3か月齢離乳(制限ほ乳)
(プロジェクト取組前は自然哺乳4か月齢離乳)
- ②繁殖台帳記録 ③母牛への飼料給与改善

	R3年	R4年	R5年
期首繁殖牛頭数	0	11	31
子牛出荷頭数	1	10	20
分娩間隔(日)※	—	422	418

※ (公社)鹿児島県畜産協会肉用牛繁殖技術分析結果

・目標

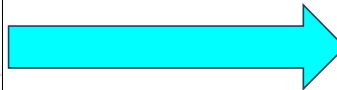
○分娩間隔の短縮 400日以内

14

・3か月齢離乳(制限ほ乳)



1 子牛別飼室のゲート解放



制限ほ乳

哺乳2回/日

朝夕各30分

発情回帰に効果



2 哺乳開始



5 お腹いっぱい休息



4 別飼室で水・えづけ飼料
粗飼料給与



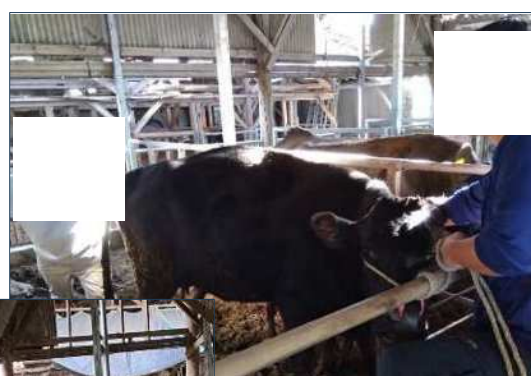
3 子牛は哺乳が落ち着いた
ら(30分)自ら別飼室へ、
ゲートを閉じる

15

毎月1回のプロジェクト巡回指導 共済組合獣医師や人工授精師とも連携・情報交換



未受胎牛治療



発情確認



チェックシートの取組状況確認

16

分挽間隔短縮プロジェクトの結果

		R5	R6	R7	R8
期首繁殖牛頭数①	頭	31	29	29	29
分挽頭数②	頭	19	20	25	*****
子牛販売頭数③	頭	20	17	24	26
生産率②/①	%	61.3	69.0	86.2	*****
出荷率③/①	%	64.5	58.6	82.8	89.7
分挽間隔※	日	418	447	393	*****

※R5～R6 (公杜)鹿児島県
R7プロジェクト結果

肉用牛部門研修会で発表
令和7年度青年農業士認定

17

(2) 飼養管理指導の充実による 子牛商品性向上

ア 飼料給与チェックシート(CS)を活用した指導 子牛育成飼料給与マニュアルの普及

7日齢から「哺育期用飼料」は秤量して給与！

飼料毎の栄養価

飼料名		CP(%)	TDN(%)	単価 (円/kg)
哺育期用 0～3か月	げんき君	20	76	123.9
	ぼくぼくモーレット	18	75	
	ほほえみえづけ用	16.5	72	
	すいっち(TMR)	17.5	73	
育成期用 4か月～	子牛用ぴかいち	16	70	110.2
	子牛ほほえみ	15	70	
	育成の流儀(TMR)	14.5	66.5	
	子牛用あゆみ	14	70	

哺育期用飼料給与で
第一胃の容積・絨毛が発達

哺乳期は
消化率の高い
哺育期用飼料
を給与



ミルク+哺育期用飼料

鹿児島県肉用牛振興協議会資料より抜粋

18

出荷成績を数値化し改善効果の確認・検討

技術診断 子牛販売成績

		R5	R6	R7	R7/R6
雌	出荷体重(kg)	271.0	282.8	294.0	104.0%
	出荷体高(cm)	110.5	112.4	115.0	102.3%
	出荷日齢(日)	278.0	276.6	292.0	105.6%
	出荷体高 $\sigma + 0.5$ 以上割合(%)	0.0%	40.0%	66.7%	166.8%
	日齢体重(kg/日)	0.975	1.022	1.007	98.5%
	1日当たり増加額(円/日)	1.653	1.362	1.669	122.5%

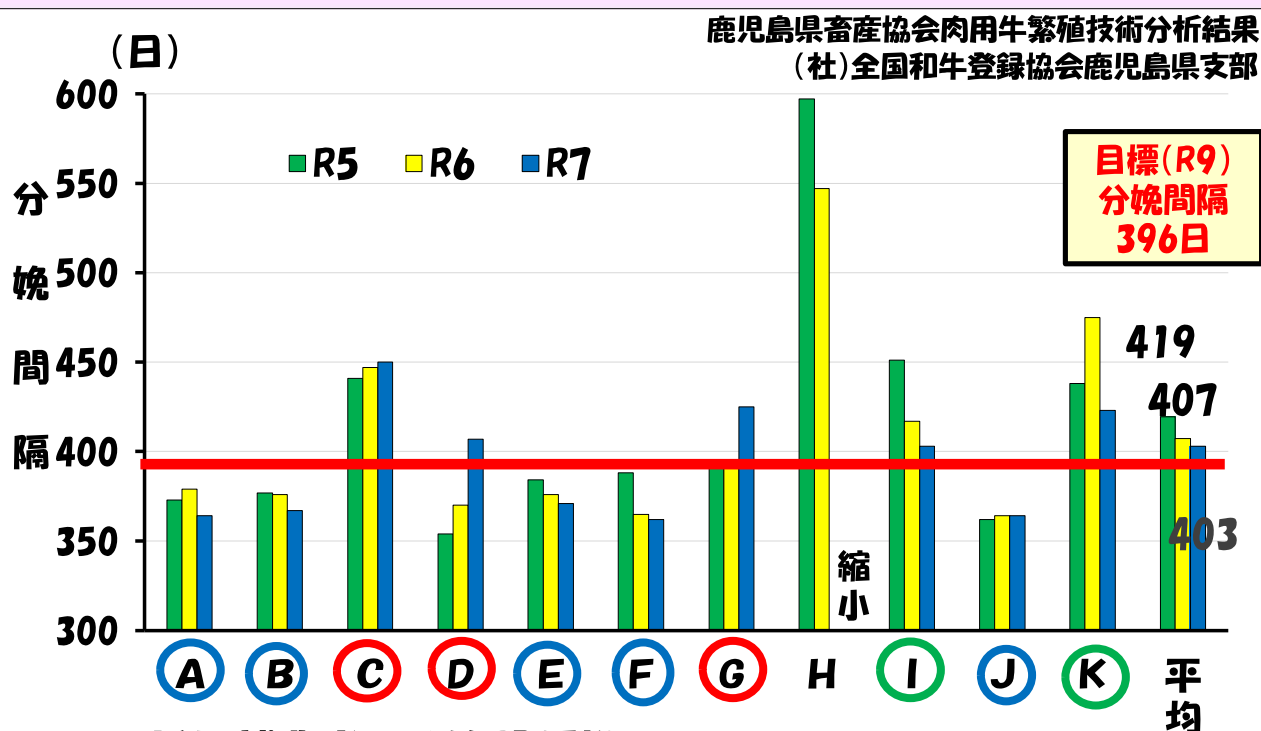
子牛販売成績せり市対比

		R5	R6	R7	R7/R6
雌	出荷体重(kg)	98.5%	104.0%	107.3%	103.2%
	出荷体高(cm)	98.0%	99.8%	102.2%	102.4%
	出荷日齢(日)	100.4%	98.8%	103.5%	104.8%
	出荷体高 $\sigma + 0.5$ 以上割合(%)	0.0%	78.7%	140.7%	178.7%
	日齢体重(kg/日)	98.2%	105.2%	103.6%	98.5%
	1日当たり増加額(円/日)	103.0%	94.5%	94.5%	100.0%

19

6 活動の成果

(1) 分娩間隔短縮による生産性向上



20

(2) 飼養管理指導の充実による 子牛商品性向上

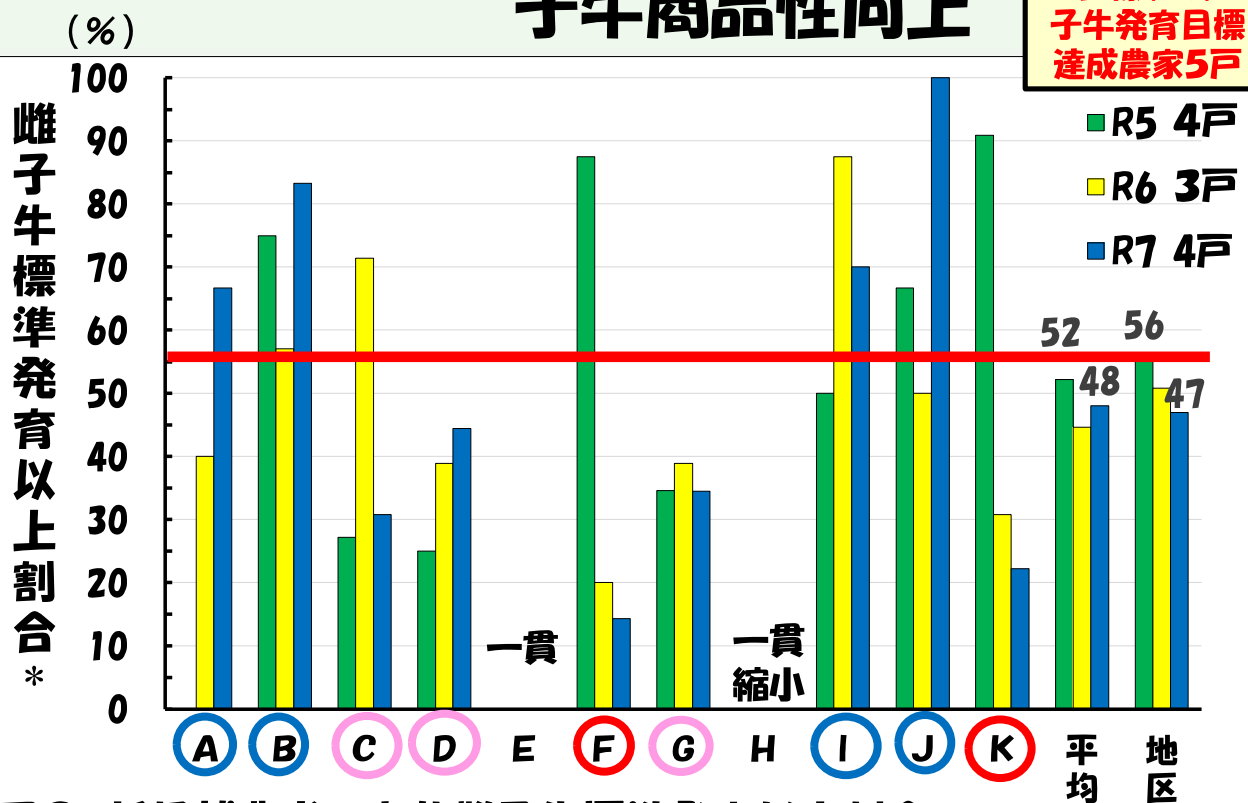


図8 新規就農者の出荷雌子牛標準発育以上割合

21

7 今後の課題

令和8年1月子牛価格は662千円に**上昇**
新規就農して終わりではない
所得を上げ、肉用牛経営で生活する

- (1) 分娩間隔 400日以内
- (2) 雌子牛標準発育以上割合 55%以上
- (3) 技術診断による課題の把握と改善
- (4) 地域資源を活用した飼料コスト低減
- (5) 複式簿記による経営把握と改善指導

22